作成日：　2010 年 1 月 18 日
改訂日(V.7C)：　2023 年 8 月 22 日

安全データシート

１．化学品及び会社情報

化学品の名称：　**日農アプライスタークル粒剤**

会社名：　日本農薬株式会社
住　所：　〒104-8386 東京都中央区京橋 1 丁目 19 番 8 号 京橋ＯＭビル
担当部門：　環境安全・品質保証部
TEL. 050-3490-3494
e-mail: kankyouanzen@nichino.co.jp
緊急連絡電話番号：(平日)　050-3490-3494 (環境安全・品質保証部)
(休日、夜間)　04-2929-8961 (ＡＬＳＯＫ)

推奨用途及び使用上の制限：農薬(殺虫･殺菌剤)、農薬登録の範囲外の使用は不可
ＳＤＳ番号：　５０１－１４５(Ｍ０９－２８)

２．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性	自然発火性固体	区分外
健康有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分１
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分２(呼吸器/吸入ばく露、肝臓、腎臓)
環境有害性	水生環境有害性(急性)	区分３
	水生環境有害性(長期間)	区分３

上記で記載がない危険有害性は､分類対象外か分類できない。

ＧＨＳラベル要素

絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 長期にわたる､又は反復ばく露による臓器(呼吸器/吸入ばく露、肝臓、腎臓)の障害のおそれ 水生生物に有害 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

- ■ 粉じんを吸入しないこと。
- ■ 保護手袋を着用すること。
- ■ 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ■ 必要なとき以外は環境への放出を避けること

【応急措置】
- ■ 気分が悪いときは、医師の診断を受けること。
- ■ 皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
- ■ 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診断を受けること。
- ■ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

【廃棄】
- ■ 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事等の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

他の危険有害性：

有効成分であるジノテフランは、有用生物類の蚕、ハチに対しても毒性が強いので、環境生物への影響に注意すること。

３．組成及び成分情報

化学物質･混合物の区分：混合物

有効成分化学名(一般名)：

1) (*RS*)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン
(一般名 ジノテフラン)
2) 3'-クロロ-4,4'-ジメチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサニリド
(一般名 チアジニル)

成分及び含有量：

成　分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
ジノテフラン	2.0%	165252-70-0	8-(4)-1339	(5)-6767
チアジニル	12.0%	223580-51-6	8-(7)-1324	―
〈その他〉				
シリカ(非晶質)	約 6.5%	112926-00-8 7631-86-9	既存物質	(1)-548
樹脂、鉱物質微粉等	残	―	―	―

４．応急措置

吸入した場合：　被災者を速やかに空気の新鮮な場所に移す。異常が現れた場合には、直ちに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱ぎ、付着部を多量の水と石けんでよく洗浄する。異常が現れた場合には、医師の診断を受ける。

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：水でよく口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯の水を飲ませる。医師の診断を受ける。意識がないときには口から何も与えてはならない。

５．火災時の措置

消火時の注意：　消火活動には適切な保護具(自給式空気呼吸器等)を着用し、風上から作業する。高温により発生するガス、煙を吸い込まないように注意する。消火水が下水や河川等の水系に流れ込まないように適切な処置をとる。

消火剤：　粉末、泡沫、炭酸ガス、水

使ってはならない消火剤：情報なし。

６．漏出時の措置

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具(保護衣、保護眼鏡、保護マスク等)を着用して、眼や皮膚に触れたり、粉じんやガスを吸い込んだりしないようにする。漏出物を密封できる容器に回収する。その後、汚染された場所を水で洗う。漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように措置する。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い：　局所排気装置を設置し、換気のよい場所で行う。適切な保護具を着用し、粉塵を吸い込んだり、眼、皮膚に触れたりしないようにする。作業後は、すみやかに眼、手、顔を洗い、うがいをする。

保　管：　容器を密封し、換気のよい冷暗所に保管する。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かないところに施錠して保管する。

８．ばく露防止及び保護措置

設備対策：　局所排気装置を設ける。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、うがい、安全シャワー設備を設置する。

個人用保護具：　状況に応じた適切な保護具を着用する。
保護マスク、保護眼鏡、保護衣(長袖・長ズボン)、ゴム手袋
作業時に着用していた衣類等は他のものと分けて洗濯する。

９．物理的及び化学的性質

外観：　類白色細粒
臭い：　データ無し。
比重：　1.09（見掛け）
pH：　4.0～7.0/20℃（1%水懸濁液）
引火点：　データ無し。
自然発火性：　常温で空気と接触しても自然発火しない。

１０．安定性及び反応性

化学的安定性：　通常の条件下では安定。
危険な反応：　知られていない。
危険有害な分解生成物：　燃焼すると有害なガス(CO、SOx、NOx 等)が発生する可能性がある。

１１．有害性情報

急性経口毒性：　ラット LD_{50} 値（mg/kg）　♀ >2000（死亡例及び中毒症状無し。）
急性経皮毒性：　ラット LD_{50} 値（mg/kg）　♂,♀ >2000（死亡例及び中毒症状無し。）
皮膚腐食性及び皮膚刺激性：
　ウサギ　刺激性無し。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：
　ウサギ　極軽度の刺激性（48 時間後に消失）があるが、GHS の判定基準以下である。
皮膚感作性：　モルモット　陽性
特定標的臓器毒性(反復ばく露)
　区分１(呼吸器/吸入ばく露)に分類される非晶質シリカを区分２の濃度限界である 1%以上・10%未満含有すること、及び区分２(肝臓、腎臓)に分類されるチアジニル原体を 10%以上含有することから、区分２(呼吸器/吸入ばく露、肝臓、腎臓)とした。毒性未知成分量は 81.2%。

１２．環境影響情報

水生環境有害性(急性)：

コイ、オオミジンコ、緑藻の毒性データにより区分３とした。

水生環境有害性(長期間)：

慢性区分２に分類される成分含量から推定し、区分３とした。毒性未知成分量は 79.2%。

生態毒性：

コイ	LC_{50} 値/96h	72.0 mg/L
オオミジンコ	EC_{50} 値/48h	33.9 mg/L
緑藻[#1]	ErC_{50} 値/0-72h	27.8 mg/L

(#1:*Pseudokirchneriella subcapitata*)

残留性・分解性：　製剤のデータ無し。
生体蓄積性：　製剤のデータ無し。
土壌中への移動性：　製剤のデータ無し。
オゾン層への有害性：　製剤のデータ無し。

１３．廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託し適切に処理する。
空容器：内容物を使い切った後、適切に処理する。使用済みの容器は、他の用途に使用しないこと。

１４．輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

国連番号：　該当せず。
品名（国連輸送名）：　該当せず。
国連分類：　該当せず。
容器等級：　該当せず。
海洋汚染物質：　該当せず。
緊急時応急措置指針番号：該当せず。

１５．適用法令

農薬取締法
毒物及び劇物取締法：毒物及び劇物に該当せず。
労働安全衛生法
表示対象物(法 57 条、施行令第 18 条)：該当せず。
通知対象物(法 57 条の 2、施行令第 18 条の 2)：該当せず。
化学物質排出把握管理促進法(化管法)
指定化学物質：該当せず。

１６．その他の情報

参考文献

1) JIS Z 7252：2009、GHS に基づく化学物質等の分類方法
2) JIS Z 7253：2012、GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法―ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）

本データシートの記載内容は、この化学品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。